



1977
3



Handwritten text in seal script on the left page, arranged in vertical columns. The characters are highly stylized and difficult to decipher, but appear to be organized into several columns.



Handwritten text in seal script on the left page, arranged in vertical columns, continuing from the upper section.

玉海集題目錄

秋之部

初繩

一葉

七夕

秋蟬

秋螢

秋扇

稻妻

荷飯

玉祭

付施餓鬼
金燈籠

躍

相撲

文月

霧

霧

槿

萩

萩

薄

女郎花

芭蕉

蘭

仙菊花

養人草

秋草

蘆穗

虫

色鳥

鳴

鶉賣

秋鷹

鹿

秋田

雁

月

付名月
約運

碓

九日節會

菊

葛

葛付

色葉

名木紅葉

紅葉

紅葉鮎

葎

木實

雜秋

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

名木

紅葉

紅葉

紅葉

玉海集卷第三

秋部

初秋

愚判

かゝ風もろふ立まらや秋津波

加友

秋まねとよに滝室や風乃神

熊野石巻

遠すにまゆ時付乃文月か那

日

秋いそよきれさふ乃文月か那

松清石巻

風よあれいつら文月れさる

貞室

初秋のあといよとよ

いのかさー汗やそのまると初の家

風

一葉

先師慈

流頭の舟ハ蛇柳乃一葉か那

甲持甚九郎
重晴

常盤といふ舟よりあ髪を

そろゆりのの出るをゆきて

柳髪や風乃とまよひれおらひ神り

西田三郎左衛門
元知

愚判

一葉乃散るるやあつくと

寺町浦上長
一正

一葉のふゆや柳の浦はくも
但西生野尾崎
貞貝

紀列の人此挨拶よ

一葉のふゆ河より此出舟か那
江島曾根村大畏
信可

ひらくは一葉の舟此破換くる
武島江戸長谷川
正重

舟のふゆや相の一葉の舟と此
伯列荒屋中
車久

相葉よさうめんとのむせ

ひやまふ秋さる相の一葉か
徳窓

セク

芝作題

たふるも海つたあしく此れり
正章子十
元次

セクれらるるまじんや梶乃枝
中川
季吟

あんするも七日七夜乃り此奇
安静

こひあひてはあやうらまふ河較
日

たふるもに花はるると
寺町

セククローもる花りや七川えり
中島内
泰園

初くうや織女乃のせ乃いと車
伏見東
貞辰

セクよかすもる相や七かき縁
清光

愚判

文月の星よみののうすのまのりし

折神太海山氏
保友

たまりしうした岡やあまこころも

武島江戸後邊氏
照祿

あまのついで一福んととも契か那

母前權井信房氏
良瑞

たまりしこれ初まじと

あふ早も明むいよとれいよまよえ

東三系山本氏
善入

らんちあうこれも半亭おせ夕

江及津高橋氏
正信

なまけあ酔て管まうやあせ夕

備中吉野氏
信元

たまれおるよと並より侍りて契

たじく海やけいよととも白とめせ夕

中川氏
吉宗

綿をく八蜀女とそいんめせ夕

紀勢和山日氏
貞長

かほききれ橋姫や乞めたあり

惠佐

かほききりし橋や海す天れ川

貞室

あまれあやかこころの糸後

貞室

たまりしやいそきお葉のうとよひ

貞室

六月の国の侍りしとて契

貞室

阿まのあやと一月を海り

貞室

たまりしはけあこころのあま

貞室

たまりしれお取よと酒のけり

貞室

あちがんくけくもいかなーやめたさうん

日

ききあめいねうひりーハ物長時を

日

後物の内紙

起てあさうり乃り此別書

日

秋蟬

之師慈

よき〜小所々奇々秋乃蟬

中井氏

忠幸

愚判

うらひすにきれあや秋乃蟬

伊藤公上野氏

未成

秋乃山小鳴蟬のきやいろけき

松列湯山氏

三章

秋螢

之師慈

文月よとる螢ハ飛御か那

橋列娘三氏

知重

愚判

らみ井く乃火く蕭のり小飛螢

尾列深氏

独下

秋うせふ迹庭よりわろけり

貞室

秋扇

愚判

そのとすもや扇臆病凡乃者

敦賀野成氏 定利

秋風乃多てひのめむ扇亦

九郎兼光 兼光

折行は風をわけどくあまふ

敦賀野成氏 永吉

稲妻

先師慈

稲妻や名つけハ秋乃田より娘

江ノ内成氏 但秀

愚判

田乃曜ハ稲妻乃かふふとひちり

江ノ内成氏 季政

いふひしるあてもらうし縁の友

江ノ内成氏 光春

荷飯

先師慈

又月やめてくく炊くをすれめ

李以

とすれ系にハ何乃いひもやせれ割

勢利兼光 良利

玉祭

付施餓鬼

先師慈

佛もやうく家終女うたすまゆつり

西三島成氏 元知

盆は靈供とそる人ゆふとそ

盆乃内ふたそと玉おは術もりか

江ノ内成氏 但秀

夫川ふまよとくもや水施餓鬼

栴列本

貞因

か後川あて水施餓鬼すらし

みく

経よもや蟬乃小川此水施餓鬼

見玉三郎若水

貞利

玉祭 付盆燈籠

愚判

法界ふたむけや水乃玉まより

東山平氏

善入

なまよとくふそせふあり具此玉祭

東三條西村氏

法雲

さとりてやけりうらうしれ玉まより

建部直常

若林

んそつころ乃露此ち下やふなまり

た乃教るハ栴津あ上牧の位

え寄とらふ人あまよん修り

ととわ

出れ声ふふ来て足我々杖の布那

栴列本

宗清

こそそんらやなまよと東坡々玉祭

貞室

こそそんらや婆婆せいの玉祭

日

いそそ居ていけまてもせん玉祭

日

招魂の法界やふなまよつり

日

亦灯笼とらひのものを軒小
つり垂るる也

うらやんや揃せぬ物乃亦灯笼

日

返答より盆のまうろをかき

それと見よるに一人乃新灯笼

紀伊和山住
則友

本形も乃灯笼と見よる也

ともはせしてはゆやお縁乃新灯笼

京馬五茶
宗方

盆の夕つる森の中より灯

籠とあつるはみき

ちや森よあけ燈籠乃大良かあ

尾加藤田加茂氏
一甫

躍

愚判

ありも此燈籠をさるるとさるると

京平尾小茶
幸以

かけてもあつるとりたあや廻文哥

賀加金次郎
明忠

大渡乃うらやんや伊勢とさり

信徳

新あなをこもさるるあつるとりたあ

移列松
宗清

生澤川乃奥も是月ととりかあ

中川氏
喜雲

相撲

先師忠

はめよりわろくはししうつこお撲
清水やとあせとなりや関お撲ひ
去るはらうもや紀の海に実すまひ
出あもあや安老のせますまひ
知志ぬまもあはばや開お撲
つらんもすまもあや四十八んく

播磨姫給内良

交云

孫列大徳

如貞

日

丹列福知

專意

孫列大徳

万春

薩列藤見

大山氏

愚判

いさうひ乃もつととあはばお撲
かうとあや人のあはばは過すまひ
又月お撲ま乃お撲ひひ移り亦
おお撲まよとあまや月のうにけけ
おはま乃いけまよとあお撲亦
まのこす相撲はけのなまけけ
押まういもどるや弓結のせまお撲

敦賀野沢氏

永春

徳窓

尾列住

之也

尾列住

有也

孫列大徳

易利

泉列棟木野氏

頼廣

見玉三郎

貞利

文月

先師忠

秋とつし能く又なれや又月夜
世界の掛あは誰の月夜
蔡倫の紙の旁乃此の月夜
下出り水ふらふの月夜
みられてや空のまの月夜

愚判

云筆のいと神見するの月夜
風ふ雪ふりし月夜

抄列大直信

貞因

丹波福知院氏

之政

遠東寺

梅森

抄列大直并世氏

之

泰因

紀別野知山氏

道亨

林八兵衛

元辰

中月の秋りく見たりや又月夜

播磨難波寺氏

正舎

声の白くそとくに星ある月夜

惠佐

文月也見ゆ人々くとあてきこる

村

なしく報よけり

文月やゆけととあはれり

季吟

かひ川乃文法をみく

抄列大直

安明

思書や墨すりあはれ月夜

安静

少月乃似世相なれや氷れ月

教賀野良氏

永吉

露

愚判

あさあ露ハ響くねとても木玉の

紀列和山日良氏

貞長

又乃七回思あつてもよくて執行で

ひきし野も我袖つぎよあながみ

正哲

中尾氏れ人の母のうせせ

あつて

もそちらりて少袖よのりう一帯洞

貞室

霧

先作歌

雲よりけは実五杖乃初くれ

糸富治氏

貞友

すんゆりくと山とさつむや霧れ海

此友氏

栄甫

愚判

夕霧やそひく霧葉れわれん

橋列大坂世賢氏

一之

枯乃木ハ霧くそらけりるそく

但列生野中邊

安永

風のそよめかたりふたり霧れ海

丹列南出松氏

重安

槿

物かひふたりあひひとのいれがら

是ハ槿并基佐乃句と云々兼侍り

先師題

槿よ申さぬ自わりの源氏か那

物息や日わけよはちらしくかみま

物うわらわくことよせたりや檜

槿列之故世傳

一之

我屋拍時

杉郡

丹列之系之

吉貞

愚判

物うわらわぬ志不め家や目をと見わけ六

物うわらわ出頼よよ志志乃た見え

物新し目線さ海一たう花見り那

物うわらわ又も猫瑠君玉かつ

物うわらわせんこそす人乃盛か那

東在昔在門

秀朝

槿列之故在

政武

惠佐

季吟

貞室

萩

先師題

あつち萩ふゆつちの風乃声かたり

愚判

但々

倫良

そよりあつちさうしそせせせせ萩風
さうさう下さうや萩乃声かたり

尾列

有也

秀朝

萩

愚判

あつち山里よ庭他を

萩とさうして萩一族ら

あつちさうさうさうさう

かたりて

あつちさうさうさうさうさうさう

徳窓

萩萩やさうさうさうさうさうさう

貞室

薄

先師

あつちさうさうさうさうさうさう

丹列福智山

見友

あつちさうさうさうさうさうさう

高瀬太郎

梅盛

あつちさうさうさうさうさうさう

薩易康

太山氏

愚判

中よりおけいし言葉新回乃旗すき

有り乃羽た薄ハ靴よさー業か那

ゆりんきよみそよ山有れ尾花くれ

すーめれ袖ハ瓦花く風乃神

人乃産れ岩のくさ海より

いし代して産ハひりー乃瓦花れ

貞室

女席花

芝原越

小松原梅子

時明

紀房和山日方氏

貞長

捕列姫路氏

亮玄

丹列宮津住

秀宣

さけろせとの野も葉は時よ女良を

通力とーういや伝女席花

あつ女乃女七白の道音よ夏

妻大とくあてみ乃事この世と

よかん依けつあてよ妻成男は

いああせと

女席花妻してなるやねと山

孝吟

孫列大協住

如真

中井氏

忠華

愚判

とうておれ縁けよかゆり女席花

孫列大協住

榮春

わたりとるや海をくこ山乃女良花
舞なきとて舞や京川と忍ふ魚
是も此れそれ根分り一女郎花
地獄谷乃使りしとんごんご
咲くや在御少くさごんご
とんごんごもどるや破る邪淫戒
女郎花らゆらに咲やみらぬのり
つらきとてらる助老花やをれ面

下村利光

康吉

尾列之世内良長
摺卜

梅盛

勢列者名住良氏
良利

徳窓

山科氏
重貞

童楠

貞室

芭蕉

あつ寺乃玄園乃花りり
極らも〜とみ〜

玄園乃前よら〜や奏者ま

惠佐

蘭

先師慈

蘭菊乃家やつりてまの何

世田氏
正次

愚判

ぬらぬらしつちやひしつちやひま

泉列傳保氏
一武

野のよそへちやちやちやちやちやちや

杉列伝保氏
一之

白ひらきも葉らん白らん花ん香ん

和列郡山之妻野氏
徳窓

夏ハ緑秋やふがらう裳あちちや海

和列郡山之妻野氏
重貞

沖のうへへらたに乃咲ゆると

人のもく人けつりすと

物ひきりて志ん流んまを我とちちう海
和列郡山之妻野氏
直成

仙翁花

先師慈

せめて盛りの百たにあまふ仙翁花

播磨姫路内氏
吏云

ねどいふふいと香ふやあう仙翁花

杉列三田一任
重香

養人弟

先師慈

見申すさの猫踏とや那もまはあふ

丹列福知山内氏
見友

弦のひともとわらや昭君ひと人弟

播磨姫路
歩重

春の蒨乃徳れ重あうひと人弟

播磨姫路之井氏
元利

悪風ハ花乃かつとそそ養人弟

大佛清光氏
政光母

愚判

天乃かせふ家繁葉かればあふ余
家とよとてまを秘人すう羨人よ

播列姫路法意氏
正貞
紀和方山宣氏
貞長

秋草

生所集

花乃すうやひまのり約つるま
とれんや秋のひまのり約つるま
川馬野よ半纏といふ人約つるま
小風小虫やいふく約はなま
家とよとつる小車は花や水さる海

武列山形政氏
但秀
東平尾小長
幸以
丹列福知山龍氏
政通
播列大塚氏
之次
丹列福知山龍氏
久頼

撫て尺よ海こころんよりな子よ

播列勝在保松慶氏
意順

雞頭花乃盛なるふ垣を以
ようゆひまのりしとんはそ
ゆひまのり垣の関路う雞頭花

丹列福智龍氏
政通

愚判

是も又相馬乃紋うこまはけるま
まよるれよまの咲ふとみ
かけはたす木の下まれや金剛
小車乃花やま折て人たまふ

播列姫路幸貞氏
正舎
播列大塚氏
友以
相易法見氏
尚卿

校ありほろつらつや凡の口 下村利業 康吉

いこまんげのむとみく

石佛ありにつけてやいこまんげ 栲野大政任久長 重休

やまのまよとよ物と極ら

音あり

ちりてひくおまゆと乃平れ矣管 武嘉江任 秀長

あそけねぬ蝶あり乃折安 秋世小任 信貫

芦穂

之師延

蓋乃植ハ達戸者乃拂子の 恭圖

虫

愚判

ふとわつ声や時一七條のり 東海氏 正頼

なるとまてんよとむらも響り 栲野三任 無及

声せねんあつらわこのつとむ 季吟

係たもあて野虫とらあそ

耳しあれまてんや妙のせ心亭 日

よとあそひて

奇合ハハ鳴きもやうにいとくか
蜻蛉乃芥とかりそや木こり虫
徳窓一
丹列水玉巻
重成

於此とめてけりかめとそ

ひの中て声乃玉や朕らうり
可政
濃勢竹鼻美畏

虫乃言や氣の毒なわ鶴らうり
重隆
京五条富田氏

樟揺うひ乃よるけり野をこれ霜
重道
江川草津木村氏

声乃あよかきういんまや虫乃あま
求友
備前姫路住

声かろく虫ハ移ひえと霜夜か那
紫外
山陽

蟋蟀とあそやあまれか海下
恵佐

蟋とつて後や蟀とひり乃あま
塞童
越前福井住

野遊ひの量つてこりり

くれえ
幸増
備前松村氏

かき急やひくあつたなりめ
徳窓

魚のいちくやあかまよこりめ
季吟
丹列福知山福住

根とかりてとむや木崩よりき栗崩
吉英

中ても忘れと虫もせよ少てつ虫
物乃うあかりゆあふよ

そらハ何れなげされ森のよるれ鯨
貞室

隣家の人集てしつゝのあはれ

かへりうらまひくたぐそを

いよよあひて

とほくろりあひてしそをけむの志

とらゝあやだ松むけ着みどり

玲皇のまことしをうらむか那

あやとそくそを

ようれつにあやふかりあむじれ声

日

日

日

日

父名

先作

たうまふ父名くそ野志めか那
慰まのり父名れ啼言か那

愚判

里よ鳴もやまもそあまを根うふ
山うや菴にらうもそまら洞

鴨

先作

振列坂井世氏

行正

振列大協任

正隆

濃列街鼻大畏

徳窓

可政

姥鴨乃やすむる小田乃小所かれ
姥鴨のこちかひえつけ鴨の杖
姥鴨や若つけていそくはむける

丹列池野氏

重久

播州姫路徳政氏

之富

武列江戸野政氏

但秀

愚判

森えよはこくくさの羽をとる

敷賀任

秀辰

鶉

之師然

深草に鶉鶉くむ竹田か那
むく山乃鶉のあやひくさくもれ

系之任

重春

丹列志波徳政氏

正次

愚判

夏ふきくううく鶉の縁をかれ
深草はらくさくさくあける鶉か那

孝吟

周防岩園

秋鷹

愚判

鳥とらや小鷹がれとと大つらん
あつてさくもさ雀ととら小鷹か那

播州大板徳政氏

之

播州大板任

正隆

鹿

之師然

不便され何うなれよと云れ
少く少くよと云れ何うなれ
鹿と遊ばし痛作の山と云すも
うと云て鹿よ笛吹さんろか那

愚判

又もなげさうてうらう鹿の
あつせんのことと云れ何うなれ
さや麻やよと云れ何うなれ
かろくやと云れ悪日不出行

赤坂

丹羽福智氏

知重

薩免鹿嶋

大山茂

丹羽上松佐氏

正茂

季吟

江州大津西氏

吉勝

敦賀野氏

永吉

踏雪父乃懐回乃ある

初世のころくさくさする妻鹿
おとろくぬ鹿はまれに鳴子か那

和列郡山池田氏

季吟

正武

秋回

先師慈

世上秋の地なりうとて民の

よろこびけるよ

小回やうよてらるは輪のやまれ

高瀬太郎氏

梅威

鳥羽少

里ありて多相回れ猶やほろり道
わをわすけ風ふお暇は回つゝかれ
大風よついと停録ゝ係田面か那
沢田守備部や水ふうきそを
里乃由たごう係ハ是か海たか那
かゝ一垂しおと備部と此麻田かふ

愚判

敦忠屋門
文明
貞因
政通
重香
政次
丹列上校佐之氏
尾列住
之也

山田よきこの付しつと信うと

殊乃由やまゝくくやまの佛供領
かり由よと二やまの何やまをせめて
情にのれてたのれと頼む傍部
い録とらふ山田の麻乃ふととか那
山田てもえのりと身りそうつかれ
らちむもそそ藤穂ひらつた回つゝ
たうねるやううねるあとのひらつ

勢別富田新泉寺
知控
吉次
正信
満成
正時
安永
貞室

雁

先師慈

落雁を志りしは色帯り山乃腰
之義野にのみむらりそ文つら

借米器名

言聽

杉列大匠住

交直

依りんめて

杉列大匠住

如貞

武列江戸の殿

但秀

金れう夕白かやく天津か
字はくし其教志くぬ天津雁
細小入の字句やうの厚字か那
番ひ居る厚や女文字男文字

武列江戸の殿

但秀

春圓

芦原小落むかりや後乃文字

杉列大匠住

貞岡

愚判

少く見むるありは後乃語後乃
掉ふなりて川をわらるやもり
かりかり浅村くもり時入矢くれ
厚まゝ此矢先や後乃まいた中
ひ馬や雲に志くく入る文字
双ひわる厚乃すくくや分毫字
よくむと少むの顔字く天津厚

濃列江戸の殿

可政

清水氏

言聽

尾列住

有也

杉列伊丹の殿

重紀

杉列大匠住

元与

尾列山山院

卜需

そらへてやな〜下馬字れ當冠

惠佐

下馬字れ當冠

定利

あしや平砂乃かりのにきり虫

正重

馬氏勇白千の催

たまひける第六

守勢れ空のかりや志々み々字

政信

馬の文字れやあやあやあん少死

季吟

月新ふまりわらるやとく〜乃如ひ

日

月乃の係もさの袋うあまのかり

正久

雁瘡とく〜の如かりて

寐えうらかりの如かりて海り

侍とよめて

雁瘡もかゆらりに秋やきりこじ

一入

月

先師照

いかにてもよ〜や三丁月乃良

重光

月ま〜高家ゆて

月の良乃せの月え〜れり

無分

雲やとれ並めは月乃の暈

泉列勝住 春政

暈は天のよどりありや月乃の暈

越後柏崎野原 高盈

天よすむ月の輝やあまの影

播磨姫路三木氏 知重

雲水ふつんあり月乃の蟾の影

佐田大郎宗春 後貞

富貴天よふありとや月乃の白朧

長崎野沢氏 玄茂

くろも云はかあり月乃の白朧

播磨野原 玄重

黒も云はかあり月乃の白朧

日向 日

あけの月乃の白朧

播磨内子宗春 史之

月は兔日乃く守る花とくく

秋田野代堂権院 孝の

東よ月出て白の海乃山よ海

月と白やよく金銀りりり

清原政光 母

あつ寺めて

ひくやまの月や大島京此秋

任賀國上野住 一慶

浄家の寺めて

あ方へのりえそい川く月此子

丹波福智上野住 重政

のりえあは月此流あや三知海

清原半若春 梅森

名家乃傍のものとあて

空假中越あつら次月乃鏡りあ

名れうと月ハ鏡女のわんかあ

たくら候うそ

あつら候りあてんる月ハ鏡り

船中の月ハ

月ハひとみ月やあつら候

氷の月や天上天下由井ハ鏡

月乃鏡れつら次候定てん下

同

西田三郎

元知

泉列博任

春政

一才

勢列任

貞因

勢列任

之次

名家はあつら月ハ鏡

初年ハあつらてんる月

名家乃傍の人乃とあて

よあやあつらつら月ハ鏡

月ハ又白雪うらやあつら

さつらけや月とあつら

月ハ白雪あつらつら

あつらてんる月ハ鏡

月ハつら月ハ鏡

勢列任

延貞

味臣久五郎

正佐

高瀬大郎

梅盛

紀易粉川任

守治

敷賀任

重次

越後村上法

吉廣

丹羽福智

政通

吉野任

浄治

月歌を唐うり見奉桶の水
丹列志賀梅溪氏
 海山と自由小舟や月乃の子
越後柏崎蓮藤氏
 月乃舟を次掉や行自在天
指列之任
 さふれ川よさうく出る也月の永
丹列福智一升氏
 江乃さうふつるひくほ也月永
仕氏
 ち銀持や落りし移る月乃の子
薩列藤島氏
 月乃舟あつれわけらひりか那
紀列粉川大保氏
 夜は去門月あつ海乃のむり
指列之任
 秋の長はもえれ陸乃月見うぬ
紀列藤師氏
 正心

半月は所物まねや列一甲
丹列福智一井氏
 中月を列しみのちあま甲山
播列雄路臣氏
 月小いんてふふくまぬや月乃
播列鎧七律氏
 風なそ破窓紙射るや月の子
良列陳氏
 屋の内でああそろや月乃子
指列之任
 海さあけて月乃山や下すれ
薩列藤島氏
 月乃歌う海へたれ屏風坂
西田三郎氏
 海は月乃うらふ急もかけすり
下中三郎氏
 さうしれ乃月うとれ内もてりぬ
薩列藤島氏
 政重

たつたれ月をて物羽のゆとらん
解脱も月を益なきの氣なりし
めつる月代氣法師もやる兩傍
教下僧う弓より月のかけなりし
月の夜ハ倍も出家のかけ法師
きせりもか白雪か倚菊月夜
菊の夜もてて甲代皇月夜
尺の人の口いれくれから月夜
葉屋といふ人のもてあそく

系橋平久吾集

一好

壬午月之葉

正武

折所又按任

如貞

庚子葉松平氏

永定

播磨姫路

茂重

泉列傳任

清之

右田九哲集

正久

越後柏崎任

杜都

たつてらん伐と葉也乃る皇月夜

長子氏

東能

忌の中よ

少く産してかゝるも中代月のうわ

曰

園扇のぬく今よりい乃月代ゆき

葉子子四才
元次

八月す又白湖水の月代此あり

事大を馬氏意安ん生さるま

ひく花大つりゆも立流いれか

よつらんよまゆらりも月やひる海

曰

これ好秋湖上よまよといふ下流

歌みく十あるのあむとせよ

とわろしのかん生正幸なよ

すめらもびりよ波止去濃と

ちよのや大まんの月見か那 曰

おさあひのわあてるなと

ねいあちとらんく

切られ物もいじや月の秋 一好

阿部川よて

阿部川や秋もあまらしと月 寛政

播磨末五百歳

八月十五夜乃庚申よあ

今宵くれと

あまれと海鏡まの秋の月見か 本吉

播磨大板住

病後り

よろこひもあめ月乃なあ小 之次

播磨大板住

兵庫よて

よあふしとらんむと山代名月女 交云

播磨大板住

国くれ今宵此月よもいとあさ 梅威

いも名月といふは

天の原やこよひ乃月れいも畠
おつてんとうな月てんろと音お

新刊大徳山氏
保友

武内あて

むさし野の月さつそ十六夜
月れすこ丸さひのわちや十六夜
月乃魚やうけてよわし十八夜

東孝山山氏
正盛
新刊池田依伯氏
正盛
梅盛

今宵又桂乃花やうま乃月
ちるる所の歌さうの毛のさま月

清原氏
言聽
新刊石坂源氏
光与

十之夜うけてぬかりなれ
おてけうあま若月乃夜の魚

江島津早尚
正則

正章子元次いとくまうりし
比志うる音といよ山里あま
月影やた金をれさう音
よあむりてんせよおとせ
保友乃おつよあつ

あつる音乃月乃る見ハ文珠か那
誹諧乃こと付喙して點

貞徳

かきゆりしつし 舊茅の

ため竟宴の會より行て

てんぢりく千ひと登休や秋は月

貞徳

月 付納逆

愚判

天の道も海も家へつふよ三ヶ月

備前松村氏

幸治

乾坤乃第のそりてう三ヶ月

備前垂山小松原氏

特明

天の戸は流りあすうひう三ヶ月

松野小共氏

信貫

三日月はうとあつるや八あう

江別岩脇在宗氏

正秀

九月三日

三ヶ月は天皇若月乃二葉か那

宇治源氏

宗治

魁なるかみかみありし三ヶ月

系津路石井氏

秀朝

雲にわえぬげ抽る月乃白兔

丹列福和山氏

重光

かそき月乃今よりひは廿日氣小

熊野石巻氏

一入

人どさへ川出す月乃氣か那

江別大津見崎氏

重安

月乃氣らひさききたるうもまらされ

紀伊郡智山住

道諱

稲よりうつりくわぬ八月乃氣か那

紀伊郡高山百文氏

貞長

あまねと目と海守月は氣小

いぬの方へゆぬ八月のうさきうれ

い海かゝるあまをさう一矢う月れう

月うれかけハ物それよわのこ雲

なつとい秋の月夜やゆえたと経

戦ひふ揃るや後夜を月乃ら

三川岳のまよ月うれはけろく出

有る氏乃何某真坊のまよ

ひよりうのすいひまかきや月れう

越前福井住

玄樂

尾列名護屋住

兼勝

紀加石倉氏

一入

加交

徳窓

教賢住

秀辰

季吟

月と人やおぼあつたやあれ夜

つよあけて月夜よ夕り窓乃肉

作らふ小窓の井れまを月と

みく

常き月夜も作らふ小窓乃池

懐中より

おりへんれ録めや月もすゝと矢倉

おもひ六なりふ十日れ月見の那

見るとさ花と雪とて月夜うさ

徳窓

梅列吉置氏

信元

京東寺住

定久

梅列井底住

玄孝

播加書守山

祐典

播列末五百歳

寛政

ゆげのちやもたむつ月の歌をし

池田氏

正次

すくもや月のゆみ乃わけりし

後之

月のうつろきや鏡とく柘榴粒

安明

月のぬいせ東とともりるにけり

法法

ひとあふわけり六月乃ぬか那

徳窓

月乃輪れ葉とよきよとゆり本立

義也

雲れ上や月を桂乃院れ浄所

俊秀

それあると世とよきよとゆり

元信

園乃花八月やかつれさもかり

元知

月歌乃かつと水よどり本立

泉列棟親氏

一武

水乃歌あつと初るや月乃舟

奥田雨田

池水乃波るれ月やあふゆり

清政

月乃舟いせ界りし海り光か那

意煩

けい乃あつと初る月乃舟

重次

さ次かけなもつとさねや月舟

玄孝

初るいよかつと初るや月舟

宗宅

南水よ添るささう月乃舟

幸以

水汁とよめたのもね月乃浄所

友以

代待る運賃と為や月乃あ
氷の舟も荷つまでや一む月れ舟
舟もろ八月や船白乃むりひ舟

赤間く雲よて

いふらうしあうまう園乃月れ舟
塩夫ふみならそやあつ月乃舟
鶴乃橋れ下よや月乃舟
十ふたや二艘りやひ一月れ舟
たふひくや月乃舟あまあ音乃海

満時は月志やもなまきろり舟

見所秋乃月れ舟やいつら舟
池もよみあひく人のあて酒
のこけり舟
見和乃人かなる人の水乃月
蝕する人新乃舟よひく水れ月
まうしきしきとそそ月也阿伽波
月の茶よちつらるるあまの脚

武列江戸富田氏
基明

勢列兼名住

武列江戸住
良利

勢列兼名住
繁系友

備列世出松屋氏
時明

備列世出神崎氏
安之

備列世出松屋氏
胤扇

備列世出松屋氏
徳窓

備列世出松屋氏
路春

能野石義
一入

勢列富田
重継

泉列有申
宗勝

越前福井住
云来

紀列那智山住
徳窓

道諱

月と足ぬ人へそせ居る人の園

京上 信光

月あつき相安人あもるて

まじりあもそこのさね

かゝるまらて

秋よあといとせうまの今宵

國枝 忠信

月とあてよ卒の心とわの友

肥前住 三忠

月夜とと巻の秋より一は簾うふ

如自

揚山家の月ととにまらて

尾形 如自

晨明やつまなつて忠孝の月

一甫

ちいさ海乃杖月新いのこ

浪右 長茂

なまの人の二七日あはれの日

勢利 良利

月へくきふ方母やみちり日

いり列ま津の音あて

友中 正屋

あかき月とるあつたふるか那

三河 長之

あま雲方や六月代乃二重の庵

居る人ときいひて

五秋の雲もつれらる月見か那

武列 蘆雄

鐵人畫一の絵は柄一筆
見せてさつ

月のまもるまのけし安藤のれ

進友のれ
逆耻

名馬と幸のりかこまの侍武者

絵と見ゆて

池つきの乃かまはす侍書はぬか

備列家
頼真

ぬよりと先に並めすれ月の如那

何内臣
光義

又て月の暈さるりたる

見物と死てやめせ侍月の暈

杉羽の侍
恒貞

三つめく

月之もめりや三つめく言

清水四郎
言聰

むさし野乃月乃ねんやふたりん

濃勢
可政

佐流も小くさしゆり

賀多金次藤原
明忠

まね中の寐え乃床月ん

賀多金次藤原
明忠

鞍渡の月をみく

猪羽三木
義下

草乃なりに丸く敷く流乃月

猪羽三木
義下

勢別物くものやめく

土地
可頼

物態乃名よる月の和も小

土地
可頼

一乃音ふかしうく月やうお

新住

正種

玉造りの月とらんく

月は影や小町うはうり玉はけり

新列女坂本村氏

宗清

歌鳥子月を東に乃生れうふ

河内清水氏

春宵

雲水や洗ひて清き月乃わか

白列今津石崎氏

可隆

如ていづね海云もく月天子

伊波助氏

信徳

月にわかひけさるゆら山のいも

越前福井氏

良弼

宵闇はもきれをらん月とまり

薩摩麻呂氏

秀幸

うめそきうじきんたふ

たふ心乃中より新住も侍て

美川三郎氏

長之

天は厚やするくもあつ子る月

播磨吉曾氏

吉和

朝やけ小舟やうのうら小望月

八月十三夜は月名は宮城

えて又あつる也

勢利松坂氏

良信

めらりあひてるやはらよみ列哲

尾列文治氏

友下

子の比月の闇ふもよらぬ光の那

新列大坂氏

正隆

松中くわううゆふも子り月

尾列大山氏

谷直

夫も又とのまよつてや子持月

武列江戶神農
貞頼

丹列まねのまよく

不うらむのち月かるやまねのま

備列村代
幸坊

嵐もやひられくあつめ地月夜

丹波福知山横山
吉英

曇れもや自方とまよとち月夜

備列世平三子南
言辰

もら月や夜くよくひく日の輝き

備列
徳窓

望月乃湯やひやせなあまれかえ

勢列富田蓮寺
寸松

八月十五夜若き世よて

泉列
一守

たいたうらよりのびりや餅月夜

泉列
一守

いよりの月やまのよらもち付

泉列
成安

月もまめすや名ふけよまけよま

徳窓

月や今よひよかりなすく和ま夜

阿列有里鳥
正吉

人よまよらうよ月か三又か那

備列
清讚

三虫夜らうらうとや月乃嵐鳴

可全

いさう頼ゆり子乃不思儀ふ

中復しけつよまろこひよ

あよあつらんめい月乃ひかりかえ

恵佐

八月十八日ある寺あり月見

あつて

佛壇の頂縁とめくはや寺れ月

月の影も星のこゝろやまは家

いらりたれ名月と

若と捨て月りや山よ御隠遁

十三夜よ

朋とみり月や二夜とあつたり

十三夜は月いつの年よりさるは

日

日

日

孝吟

日

曇りなきは月や少くもよれ秋

粟名月よ

つららの声ハ沸若の物よな月

さや乃山や大夏若月乃出とあろ

曇りいも若月やひくやま

西海なれハ

あまのりつに中一とむむる月

雲ふ風や月ふ三虫夜中たの

八月十八日秋新在家よて

日

日

正久

安永

南林地虎氏

孝信

重隆

系累若島氏

但利生野中氏

系五系富尾氏

月見せん三又月中乃新在安

備列世忠實良
後安

乐山よて月とみく

とよひ三五あすらん月やとる答

和列郡地畏
正式

弄仙ある中勢と

三又月の月とて輝乃中法はさ

可頼

蝕十二分りけり時

月ハ三五かけてや三四十二物ん

備列谷物氏
正周

何とて者小種乃月夜此方り外

泉列懐任
成安

月夜やうふ物りりしと録り

めてらんふふ人よ云

あはれうわわ月てみろと習小

和列郡山都並部
安成

めいなるや星とさくわら目乃菜

備後國住
任夕

かうやまことこよひ月見と詩る小

伊賀上野松本氏
一以

若きよ月さへあけりしよひわ形

長尾寺か二世
春清

月見よとたすすいもる今よひ小

香類屋
助信

若月や月中なりし月かーら

政信

翔もさそれ他方乃月れ粘と云

白と初めよて目次にせりよ二日月

日かつりいふはく月乃き路くふ 貞室

を丸お月りや風乃ふき移すこ 日

ひの月いものこりて出るも月れ身 日

大いよよそ月まかりけり夜

きでちよとてらせ大いゆの山れ月 日

出て月滞多や四方にとりの刻 日

八月十八日松浦慶浦乃月

乃んと只独おしひ立たりふ

よお承めてゆくひ十三日の

月とみく

うきくや若前の月越ゆ後白 日

八月十三日夜よあつて物り

かれい名月の夜もうーろ

めつて

除つきうあそそ七初も月乃面 日

をきき居士よそ

文札よりされてや月も教万巻 日

濁江とすもせらる月や摩尼の玉 日

海客此月新よ小舟さしありハ
海客人のいづこもさるるを
みる

月のわけよじつあきうらふ細川
月

八月十日の猿のやめて月を
みる

あつちのつふゆきんこりち月
月

馬のや今よひ八月のよやすめ
月

小野の月乃よ

花なすうらやもさうりよの月
月
為ふたりき月の桂や七多羅樹
月
三畧ふ根さすや月乃あつち本
月
て海月乃あつちの早井とこま
月

十ありのあよ

秋そよふ降月乃あまうら
月
章の奥れ若うらや月も雲は海
月

若月とらふ西鏡

かめさるせ月と夕乃口ひやし
月

もちなすて今よしの月やほへい 日

十五夜月蝕

天乃ちもや月かるとと朧のむ 日

西もよ小徳とわするるよ乃月 日

すきめれより宿て十五夜

各十あふの月乃あなるや 日

ゆい時

今よしそとあてん未や輝の月 日

こよしあつとあつあつあつとあ 日

源のち若もさあさる月のかや 日

酒麿乃月か今とあつとあつとあ

任しあつとあつとあつとあつとあ

上野山福祥寺とあつとあつとあ

かりけい乃東乃あつとあつとあ

月か乃あつとあつとあつとあ

あつとあつとあつとあ

あつとあ月も三五夜中納言 日

あつとああつとあつとあ乃月 日

くまの月の光のついでに
月

光明寺のついでに

月もいよいよ十三日のついでに
日

西海

海の後代ある月や日
日

くまのついでに

大豆解のついでに今日月
日

大豆のついでに七歩のついでに
日

まのついでに月をわり
日

十三日のついでに月
日

礎

先師

弟のついでに月をわり
正重

かつねのついでに月をわり
清之

うたのついでに月をわり
日

福むけのついでに月をわり
崇久

長崎のついでに月をわり
玄衣

長崎野

橋本

泉

正重

玄衣

こけり人紋乃福や宇都郡此家
播磨姫路守成氏
祝重

愚判

三拍子そり小福や志ころうち
後列大内住
友又

きねうの初唐杖わたり拍子中
季吟

じろうちよの福ありと志ろ破亦
貞室

山彦乃多や破乃いもこひやし
日

九月節會

愚判

と家も下ともろの菊亭杖流
和列郡池田氏
正式

異國少とより重陽乃いごひうま
播磨鏡津橋
意頻

とて名す九月乃菊や星まかり
後列大板井世成
在之

とていといとよりき菊れととて

追後ノリノ拍子

九族もろろ九月乃せらる忘り物
紀列和名山且多
貞長

福ひつた初唐杖葉杖言供り系
泉加塚住
成安

九月乃いといよ

仙も命やつけりきくこのさけ
大内住七九
生敬

今朝のむや酒のむいもまもるる
濃列山端氏
在之

惟もつめ菊のふりまぬ魔より景 貞室

桃葛蒲よそに菊らむ言供片 日

野子元次病中一祈禱宵 九白

九白

百葉乃重湯よらむや菊の酒 日

本門至よりおろせとて 日

お流もやみ代と八守はく菊歌 日

菊

之師然

大由乃御座此菊とてこの

とせくれん

桐壺よ作もろ菊やまゝの酒 友直

菊乃酒のわらやまん花作り 之政

酒も飲よ春りさん菊は酒裏外 忠重

つ不むは代杜康や菊乃酒袋 當黒

酒亦によすり波もやまろ乃花 梅盛

抄大政任
丹列福智山純氏
泉列博任又米良
抄新豊鶴任
末三系と成氏

ともものまゝよ〜八重乃菊酒
播州姫路城内氏
 又度之度めすや八重咲きくれ酒
史云
 つやくてのめや程々さくれけ
木村之郎左衛門
 臺よひげく亀菊と名を時女
播州姫路那波氏
 弟我菊れ測りやと〜源川
由古
 六防うさ〜さ〜さ〜乃善
薩州麻呂嶋住
 赤色く〜大曜星かよ〜れ花
他野氏
 程々〜後乃か〜り〜藩架れ菊
小谷甚之郎
 一めん小咲ハ墓石うほ〜さ
有頼屋長兵衛
泉列博俊井氏
久惠
政信
正村

梅あ〜〜菊のあ〜〜やり〜さり
丹列福留氏
 見友

愚判

菊ハ是〜い〜い〜もみ〜か那
但列生野云肥
義也
 下〜も〜来〜て〜野〜見〜河〜は〜ろ〜や〜菊〜酒
城列伏見住又我氏
安永
 久米と〜い〜は〜は〜そ〜仙家乃菊れ酒
但列生野住中嶋氏
安永
 酒志〜か〜菊小〜さ〜ふ〜け〜さ〜れ〜霜
折列大政堀山氏
保友
 白菊の〜あ〜ら〜葉肉れ霜〜か〜う〜家
折列大政住
友以
 半井家の醫師の〜は〜
高野乃若氏
 あ〜〜の〜を〜く〜め〜ハ〜葉〜や〜菊〜れ〜水
宣之

星と見れば草水や乞あもれ河
移野之西野氏
 星とみくくわくわくももも
河内清水氏
 日に光るれれ早もきくの花
尾列之清氏
 測明乃測れ字やれ菊おち
長嶋氏
 男と投てすく人も菊お測
忠清
 ませけ塘うへ酒う草乃測
徳窓
 煉乃愁くらふ幕うきくれけ
日
 花桶小た菊酒乃手持か那
平野之佳橋氏
 依見乃条乃後条
一重

行けりよあ
作者不知
 すめられて
 まくもや不老のこも菊此酒
作者不知
 握く菊も酒星乃たらくい
日
 白菊の哥人も菊乃の行う
重香
 とくもれ款もれ菊ら
貞長
 幾千代もやうんやう居る菊
華以
 疎菊やかれれわめめ
安永
 極いそつ竹や初竿おれ
易利

面とぬびてのひよかれ菊らと
信田を傳 可示

やしらや人の籬のさくら花
清水氏 一直

菊酒とすい口つねにほひうま
信田を傳 言聽

さよきよきこのこみさくし菊酒
信田を傳 伯貞

あちつひのわきもき繁きこれ酒
安靜

窓のきよまたうやうけり菊と

うらら者よて

酒さう完より自ふきくのた
惠佐

権佐乃松書なれやきくれ花
月

秋山乃原田よけくは菊池うが
信田を傳 豊常

名取のきくも

給るてあきけけよらま菊酒
貞室

醍醐行樹院よて九月ふ

菊酒もとりくにん免醍醐色
月

とりの教ふと高府よやれ

あつし一の傳ふきりあへ

より月の跡まくと高府よ

ととく空りまうと又跡ま

たすもけ賢作と志くせんそ

愚乃拙と云付ぬ又結と云ら

山後てハ酒よとも志くも菊も亦

元来やりと志根の菊の花

かあけらあふりけてやりとま

おやおあまう一人のまふ

あまあまううううう

ささやき小渡乃河此菊さう

九月十乃の夜元次らせ侍

日

いさしその枕よみらの夜もそ

源一菊れ花のうららひく

ゆらうとみく

菊やそれ枕よ侍らうすり酒

日

葛 甘葛

先師孫

うら指乃葛や信田はら日

軍場うあうにうあうくすら

未碁やゆああとう一城かひの暮

良州堺水野氏

頼廣

季吟

日

三葉

先師慈

多物多ふかへ小野山あいろはは
赤人の祿やあいろはいろはうた
むく河原深ねるあいろはく葉

播磨姫路江内氏

交云

孫列忠清住

當黒

丹思峰宗永

孫之

赤山赤山人明神よそ

赤中村虎助

長昌

赤倉善善花

正久

丹列福知山住

長者

赤山の雲もあつて木の葉あか那
秋のいろはみかちりねとわね
りりねといろはとあなまいろはは

愚判

山の霧かに筆は法乃とねき葉あ
いろはいろはいろはいろはいろは
黒いいろはいろはいろはいろは
珠のいろはいろはいろはいろは
かきいろはいろはいろはいろは

泉列塲破氏

一武

徳窓

円

加友

紀列粉川大伴氏

宝義

山寺の志あいらの灰のよふ

抱くくともみく

灰にくく三葉乃葉やかまゆ人著

丹新福智山杖氏

吉英

教のよそわれとあふするいろはは

紹引廣瀬又帝
治秀

右木紅葉

比師題

千金よりのや楓乃びじりのみち

伏見坂中氏
正秀

楓のお葉乃らりかこよいろ

くろもゆくとんく

滯ては名もどかしく乃もも

曰

又つくりあ乃玉子此かしてか那

播磨姫濱廣瀬氏
是誰

ちりら川と括ゆりとする楓の部

丹波福智山親氏
政通

風とりのて本にゆりる子楓亦

播磨大坂任
忠昌

秋風より柏と打や楓乃本

徳窓

おふかありき三葉天秋々梅お葉

久惠

惟もみる梅のいろはやうる又曆

但秀

紅葉す存いさし種梅乃長枝亦

森之

楢葉乃いろは乃や雁鳥尾山

秀白

愚判

天秋法あよ

これ神の御方乃物さや梅お葉

東山并右左門
秀翁

紅梅は深き山乃のみらぬ那

生教母

久女

母と紅梅はくまのまじりし時

接列不返井世氏

おとし志してらるものこそこれ紅梅也

結之

かこられしつらさを懐けりはは

肥列和山置時氏

慰雪

色葉もやまもあんで時よさりと

李吟

芳葉あつや木篇よ鬼のお葉指

徳窓

よ葉の比来山肉なるをこ

一葉のそ

弟よまのよこいよとんせりるるる

賀列金次郎

明忠

本くと父好むやむいり地と山

接列湯山住

三章

のみらたがぬ林ハ飲酒こそうふ

濃務御長次郎

可政

のみつるものまゝなりやとや漆

自室

ある清うの歳葉お徳し

こころひくら竟意あよ

吹風乃こころをね乃のみらゆ

日

紅葉

先師慈

下紅葉やふらつや夫う紅粉

朝庚

深あるもやそらあてあさ下紅葉
出れりよ山乃地く葉やうすりも
音とよ下葉六行人とね葉
たのそれく尺ゆりもあれね葉
るふあう滴いね葉乃笑飲うれ
秋葉てハ米よ海いね葉は

愚判

のみちには上田と名に龍田か那
翁鳥も雲よりそやといりみち

江列大住の孫氏
吉信

熱波新海吉氏
正継

丹列福智山由氏
利之

丹列福智山平氏
重重

播列姫路内山氏
一十

本村氏
重順

阿列松尾内氏
正信

泉列徳石氏
一武

あつふあて思ひさひぬらひね葉

加交

追悼

ね葉かいつり所とたうたさか交
焼ころそころ金れ下りみち
紅葉あれ葉ハすこりに懸砂うま
りみち葉や葉自にんてもか風折
とみち葉にせきうすう痛作水
折なとれれいね葉乃ものりうま
風のこいあふれ散珠やとね葉

泉列塚住
同

加列住
成安

播列上牧住
正種

泉列懐住
文索

播列大住
貞成

播列姫路内山氏
喜信

史云

あけあけやすと女達ふりさげられ

終回のりみらるよまらて

酒がとくまらて

神もゆりし新へお祭とたきさ祭

神あのお祭と

かやくやお祭のりあ一目神はあ

お祭よやひんくー山もけーのま

のみらあお獲建廬あおあはし

枝川や月のかつくれ下ののみあ

和加郡山

勝重

青根屋茶屋本

政信

尾列後田寺井氏

和俊

播列始路白定氏

是許

佐善氏

栄甫

つらつらにえゆりや物の下お祭

後お祭の毛よて

山お祭お祭乃こくしお祭

半写山よて

半うん寸山ハるはらむしゆのり

白河園よて

白川や深てお祭のあし草

はららる酒乃きくむお祭の

のみらお祭とあさや下戸たご根

尾列登履屋住氏

一和

三石右馬守氏

可頼

播列遊路村氏

風子

佐東又五郎

則常

勢列松原住

重友

貞室

さき雄のお葉のわけあはく
酒あはくめで

あおと火たつとけふすくお葉お

日

紅葉鮎

先師孫

就田作乃贅よそまふよりみち鮎
湖ようつらお葉あふ木やもの
船屋乃山れお葉あいらつとわ那
深川と海りしあうりみちあな

紀別廣願氏

時秀

播磨津島内氏

史云

播磨津島内氏

重順

江戸秋氏

但秀

血まもやいとん水産乃りみち鮎

播磨津島内氏

文順

愚判

沸騰あも鮎やうすお葉の鮎
焼ぬはもここけいんたれお葉鮎
のみら鮎あはくあ海乃うれお

素若住

方成

武島江戸之住

伴太氏

尾列住

有也

葎

先師孫

さきとくさくさくさくさくさくさくさく
さあさくさくさくさくさくさくさくさく

播磨津島内氏

元利

播磨津島内氏

元寄

天狗草とわかるも本は葉の變化が
冬くもつたれ葉とめつる種と草
播磨船岡村
一ノイ
城川村権高
季次

愚判

福すしけてうしつる日あり

しも甲子なれと

是やさうのえ子より中とする氣草
さうんやまの根とさむ草
秋高うは散れ山後乃福す草
榎草とてうしつる不うそ
尾羽徳田架氏
一甫
江戸昌屋軒
春清
五葉松中氏
永定

毎にひきまらうや傘乃榎木に
夏てまら松草中後山に
松草乃葉や木の葉代多用云
水山御草持乃御草り
秋毎に供奉しつてまら
けりあり
秋との御草松草や葉守せ
正量

本實

先師題

武列江戸住
秀長
富尾屋三郎
重隆
武列江戸富田氏
基朝

八朝は親のくまを以て其まじ
とらるとみる

このまじ成ゆや成ゆのまじは其まじ

古本より年くくると其まじ

たれん

我がくもくもくくくくくくくくく

口あきくくくくくくくくくくく

遊者よ

身向るんきやうしんきやうしんきやうしん

播磨大坂住
秀清

播磨姫路吉良
利重

播磨大坂井世氏
行正

名樋呂早女
道知

四國様のくくくくくくくくくく

口くくくくくくくくくくくくく

わてくくくくくくくくくくくく

はらあきくくくくくくくくくく

あきくくくくくくくくくくく

あきくくくくくくくくくくく

あきくくくくくくくくくくく

あきくくくくくくくくくくく

あきくくくくくくくくくくく

薩摩麻呂住
大山氏

木村大島住
重順

薩摩産良徳住
朱秀

播磨姫路住
夾云

薩摩麻呂住
守泉

木村大島住
重順

吉原氏
梅盛

播磨三木五日住
梨下

南郊細住
之利

おのゆるくともみちひけ佛子相

紀伊和山日吉氏

貞長

愚判

本乃ゆるくはるより中をせ推拾ひ

播磨饒尾氏

可隆

羅をゆるしてこそはあまよさる

拾列五松井世氏

長之

袖よりかろおれやむじり―抽緒

徳窓

おのゆるくはるより中をせ推拾ひ

おのゆるくはるより中をせ推拾ひ

おのゆるくはるより中をせ推拾ひ

化列生野住

正長

おのゆるくはるより中をせ推拾ひ

神のゆるくはるより中をせ推拾ひ

季吟

こ乃味よとくおもれ―糸座標

拾列上野住

文索

終ひて枝乃鳥と人从巾かき

何列生野住

春宵

深掃ハこ乃ゆるくはるより中をせ推拾ひ

泉列揚住

貞成

云用あつろ―たらくやあまやし

徳窓

雑秋

先作題

花乃ゆるくはるより中をせ推拾ひ

三屯新太郎

嘉雅

教かろりて

蒲萄とと出次やつらうの事此棚
なる海めいせよ未だあめ乃つらうと
越はれりすし葉ふある虫葉か那
羊乳子の指はるのれう産家うか
大長乃初行とらうや拒富
秋の夜れお乃緒やあうらう海
茶乃湯のまよふ交まかり

春去

佐藤氏 栄甫

江戸の形氏 但秀

播磨姫路 茂重

陸羽唐屋馬光氏 盛延

丹羽福智出雲氏 重久

杉村之海井世氏 去之

道心乃初うもあきれいかりか那
かゝ福ともいんる交もやまの忍真
菊と忍うもく一 漢具と見て
その菊はのちもさうたいの耐絵
好林坊亭うりそて居の絵乃
かけ物絵みくく尚在
繪よかきこし一丁も存あめ乃とて
油月れあうりかゝさぬくりてか那

竹せ居あつ 吾作

播磨之救富松氏 正壽

五條市川氏 正次

播磨之板屋氏 貞周

貞周

同

愚判

春大豆やとうふれうらる着はり

若母等大國和齋

むらりし芋の垣根はれ地を

備後住 任夕

濡る身とこすもいもれ子ゆへ

任東之 則常

とすいもれ葉乃あやうり金利の玉

法花の法儀と種あて

わけおてあうきささきはのり外

存類屋系 政信

きさのこらんとてとこらぬ君子う

和列郡山住 三忠

冬もまそめとの右後田姫

敦賀系 重次

秋このむ中文なれや後田姫

産前乃新袴は月待す家

人のまゝ

よろこひのあき菊月の日待ま

沙門 是友

まらてみる心乃月や胸すれ

尾列下 春宵

毛や菟月うとてそらるる帯は海

俊貞

人のかゝる人の羽くま

みる

羽帯の身まかりかひはるる人

播磨姫路 近

衣の布袋乃結とけけた

うらやみ忍びたりもどより布紙紙片
西田三島 永雪
念佛の心は雲霧乃の劔か那
長徳寺 春登 助信
元知

[Faint bleed-through text from the reverse side]

一

七卷内



